

# 資料集・戦時下「日本仏教」の国際交流

【編集復刻版】

表示価格はすべて税別

●龍谷大学アジア仏教文化研究叢書2

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

中西直樹（代表）・林行夫・吉永進一・大澤広嗣

推薦

赤松徹眞・楠淳澄

◆第二期

南方仏教圏との交流 全3巻

体裁ⅡB5判・上製・総1、298頁

\*巻数は第一期の巻数を継続しています。

第3巻 『海外仏教事情』国際仏教協会、

1巻1号〜4巻1号(昭和9年8月〜12年1月)

第4巻 『海外仏教事情』国際仏教協会、

4巻2号〜8巻4号(昭和12年2月〜17年12月)

第5巻 『海外仏教事情』国際仏教協会、

9巻1号〜10巻4号(昭和18年2月〜19年10月)

『世界に伸びて行く日本仏教―国際仏教協会のこと―』

吉水十果編、国際仏教協会、昭和13年7月

『南方仏教青年会会報』南方仏教青年会編、

和光社、1号(昭和16年12月)

『大東亜建設学徒大会紀要』

大東亜仏教青年大会、昭和18年6月

『大東亜仏教青年会並大日本仏教青年会要覽』

昭和19年10月

定価Ⅱ本体72、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7860-1

刊行Ⅱ2016年10月

◆第一期

汎太平洋仏教青年会大会関係資料 全2巻

体裁ⅡB5判・上製・総1、008頁

第1巻 『第一回汎太平洋仏教青年会大会並会議紀要』

汎太平洋仏教青年会連盟、昭和6年

『兄弟』2巻2号 仏誕二千五百年紀奉祝・第一

回汎太平洋仏青大会記念号

北米仏教青年会連盟・北米仏教女子青年会連

盟編・発行、昭和9年

第2巻 『第一回汎太平洋仏教青年会大会紀要』

全日本仏教青年会連盟、昭和10年

『第一回汎太平洋仏教青年会大会記念』(写真帖)

全日本仏教青年会連盟編、仏教写真通信社、

昭和9年

『現代仏教批判』(抄録)

浅野研真著、構成館書房、昭和11年

『昭和十八年一月 大日本仏教青年会連盟要覽』

大東亜仏教青年大会準備事務局、昭和18年

定価Ⅱ本体48、000円＋税

ISBN 978-4-8350-7857-1

◆第三期

中国仏教との交流(『国際仏教通報』『日華仏教』『支那

宗教事情』『東亞宗教事情』) 全3巻

刊行Ⅱ2018年3月予定

不二出版

〒113-0023

東京都文京区向丘1-2-12

電話03-3812-4433

ファクシミリ03-3812-4464

振替00160294084

# 資料集・戦時下の国際交流

【編集復刻版】

一九三三年三月、国際連盟を脱退した日本は、やがて出口の見えない戦争へと突き進んでいった。国際的に孤立した状況のなかで、日本仏教の関係者たちは、欧米の仏教者・研究者との連絡の緊密化を図り、アジア諸国の仏教勢力との協力提携を目指した。その事業は、外務省や文部省、軍部からの支援を受け、基本的に国策に順応する方向性をもっていたことは否定できない。しかし、広範囲かつ大規模に及ぶその事業には、さまざまな立場の人物が関わり、その活動も多様な側面を有していた。いま、日本の民間レベルの国際交流のあり方を問い、日本仏教の国際化を考える上で、これらの事業の検証が求められているといえよう。本資料集は、そのための必要不可欠な文献を収録したものである。

●龍谷大学アジア仏教文化研究叢書2

編者

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

「戦時下「日本仏教」の国際交流」研究班

中西直樹（代表）・林行夫・

吉永進一・大澤広嗣

推薦

赤松徹眞・楠淳澄

◆第二期

南方仏教圏との交流 全3巻

体裁ⅡB5判・上製・総1、298頁

定価Ⅱ本体72、000円＋税

刊行Ⅱ2016年10月

不二出版

海外佛事

九月號



國際佛敎協會發行



大東亞に於ける宗教別信徒數概算 國際佛教協會編

印度教	一、五八〇、〇〇〇
キリスト教	五〇〇、〇〇〇
回教	四四〇、〇〇〇
シキスト教	一、〇〇〇、〇〇〇
ゾロアスター教	四六〇、〇〇〇
ユダヤ教	一、〇〇〇、〇〇〇
原始宗教	一、〇〇〇、〇〇〇
ブータン	一、〇〇〇、〇〇〇
ニウズ	一、〇〇〇、〇〇〇
佛	一、〇〇〇、〇〇〇
度	一、〇〇〇、〇〇〇
教	一、〇〇〇、〇〇〇
回	一、〇〇〇、〇〇〇
度	一、〇〇〇、〇〇〇
教	一、〇〇〇、〇〇〇
キ	一、〇〇〇、〇〇〇
リ	一、〇〇〇、〇〇〇
ス	一、〇〇〇、〇〇〇
ト	一、〇〇〇、〇〇〇
キ	一、〇〇〇、〇〇〇
リ	一、〇〇〇、〇〇〇
ス	一、〇〇〇、〇〇〇
ト	一、〇〇〇、〇〇〇
キ	一、〇〇〇、〇〇〇
リ	一、〇〇〇、〇〇〇
ス	一、〇〇〇、〇〇〇
ト	一、〇〇〇、〇〇〇



國際孟蘭盆の夕

四海同胞の佛教の見地より、我國に渡來して物故せる外國人の靈を慰め、此の夕へ恒例の年中行事として世界各地の佛教團體にも働きかけて、これをウエック祭の如き國際的佛教祭ならしめ、佛教によつて日本の文化を世界に宣揚せんとする趣意の下に我が國國際佛教協會では日本ビクター、日本樂器等の後援を得て今年始めて「盆」のツツを切つて来る七月七日午後七時より、本願寺に於て國際孟蘭盆の夕を催し、各國大使、外人俱樂部、在留外人約七百名、佛教團體に招待状を發し、當夜は會場の中央に檜を設け、會長の挨拶、讀經に次いで外人をも加へて盆踊りに移り、遠く織田、豊臣以來のキリシタン殉教者を始め、幕末、開國の新日本建設途上に斃れた人々や大震災のため異郷に身を埋めた外國人を始め、日本文化の海外紹介、日本文化の振興に大きな役割を演じたチエンパレン、ブリックリ、小泉八雲、ヘボン、エリオット等約二千餘人の冥福を祈ることになつてゐる。尙當日のプログラムは次の如くである。

七月七日午後七時より(於本願寺廣場)

會長 井上哲次郎博士  
 主 藤 地 地  
 後 藤 地 地  
 援 藤 地 地  
 日本ビクター會社  
 國際佛教協會  
 日本樂器會社

ニウズ

中華民國宣傳部(圖書贈呈)  
 興亞大會に出席した中華民國宣傳部長林柏生氏を通じて同國宣傳部に對し、本協會より十月十四日帝國ホテルに於て多數の圖書を贈呈した。これら圖書は全部佛教關係で將來の日華文化提携に資すること大なるものがあらう。

本會關係報道班員歸る  
 大東亞戰爭勃發以來ビルマ方面に於て宗教宣揚工作によつて大東亞建設に活躍した有馬晴雄、川崎尊雄、松信定水等三氏は今回名譽の歸還をした。三氏等の超人的奮闘を謝し、その功績を讃ふ。尙有馬、川崎の兩氏は元氣な顔で協會に現はした。

ビルマ興佛教聯盟生る  
 社會的に政治的に勢力があり、しかも愛國的熱情に燃えるビルマ僧侶達はラングーンに參集し名も類母しきビルマ興佛教聯盟を結成した。會員僧侶六萬餘名、地方支部二百を擁してをり、十月中旬の兩期安居を終るをまつて、約二千名を動員してビルマ全土に行動を派遣する。同聯盟の目的は歐米の唯物思想に汚染された東洋思想を眞の姿に引戻すにある。この愛國的新運動にラングーンの大僧正始め多數の僧侶は積極的加盟した。死を恐れぬビルマ僧侶。しかも一般大衆から盲目的に崇拜される彼等の新運動は新興ビルマの建設に一段と拍車を加へるであらう。

大東亞佛教青年大會開かる  
 明年五月、大東亞の佛教徒の會開かれる。本會の佛徒の會開かれる。本會の佛徒の會開かれる。

第二回南  
 佛陀の信仰を  
 た第二回南方佛

世界に伸びて行く日本佛教

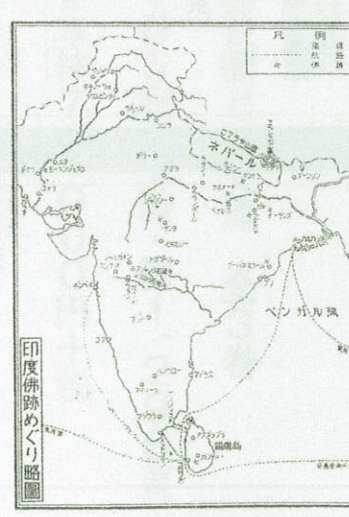
國際佛教協會のこと

吉 水 十 果

二十人位の印度佛蹟巡拜團を組織

印度佛蹟巡拜の計畫は兼ねて發表されたが、其の具體的打合せが去る九月二十五日午後二時より日印協會に於て開催された。國際佛教協會より立花、木村、吉水の諸氏、日印協會より副島、酒井の兩氏、ツリスより外人旅行部長の渡邊乙兵衛氏と香月氏、日本郵船より田中船客課副長に石山氏等の出席があつて具體的な準備にとりかゝつた。

主催は國際佛教協會、日印協會、ジャパン・ツリス・ビュローの三團體で日本郵船會社が後援することになった。時期は明年十月より三月半、毎年續行することに決り、二十人位の團體を組織する豫定である。旅行費用その他旅費の詳細は印度の鐵道會社や旅館と打合せの上發表することになり、主催後援四團體でそれぞれ準備にかゝることになった。



印度佛蹟めぐり地圖

雜誌『國教』と九州真宗

中西直樹編・解題 全3巻・別冊1

明治二十年代初頭、日本仏教界では、キリスト教に對抗して「通仏教」を標榜して結束する動きが高まつた。その拠点となつたのが、九州熊本であつた。

熊本では、真宗僧侶を中心に「九州仏教団」が結成され、九州各地の各宗派の僧侶・在家信者が数多く参加した。その事業は、雜誌「國教」の創刊をはじめ、夏期講習會の開催、九州仏教団の中心的人物である八淵蟠龍のシカゴ万国宗教會議への派遣など、幅広い領域に及んだ。

また「國教」の主筆であり、文學寮(現在の龍谷大学の前身校の一つ)の教頭であつた中西牛郎を中心として、京都遊學中の九州人の親睦団体として「九州仏教俱樂部」も結成されている。

その活動は、国粹主義の台頭期には中央言論界でも注目を浴びたものの、キリスト教の教勢が衰退すると活動は停滞し、日清戦争前にその役目を終えた。しかし、當時の仏教の革新運動の一翼を担い、日本の思想界にも大きな影響を与えた点で注目に値する。

この資料集は、九州仏教団の機関誌としての性格を有する「國教」をはじめ、九州仏教俱樂部の機関誌「九州仏教軍」をあわせて復刻するものである。

推薦 赤松徹眞  
 体裁 B5判・上製・総1、274頁  
 定価 本体75、000円+税



佛教海外開教史資料集成

中西直樹編・解題 全6巻

本資料集は、ハワイ・北米・南米における膨大な佛教開教關係の記録であり、佛教教団の海外の現状と歴史を検討するための、必要不可欠な資料集である。

推薦 大村英昭・坂口満宏

(ハワイ編) 全6巻  
 体裁 A5判・上製・総3、642頁  
 定価 本体120、000円+税

(北米編) 全6巻  
 体裁 A5判・上製・総3、372頁  
 定価 本体120、000円+税

(南米編) 全3巻  
 体裁 B5判・A5判・上製・総1、526頁  
 定価 本体60、000円+税

戦前期佛教社会事業資料集成

菊池正治・高石史人・中西直樹編・解題 全13巻

明治末から大正・昭和戦前期、佛教が社会事業に果たした役割は大きく、各教団による事業、僧侶ら仏教者が設立した施設、寺院に附設された施設は膨大な数にのぼる。本資料集では、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、浄土宗をはじめ曹洞宗、日蓮宗、真言宗の各教団關係機關の発行した社会事業の要覽・便覽・報告書等を収集整理し、収録した。戦前期佛教社会事業の軌跡を、国家目的の遂行に利用された側面も含めて検証し、仏教史・仏教福祉、さらに近代史・社会福祉研究のための基礎資料として提供する。

推薦 長谷川匡俊・室田保夫

体裁 A5判・上製・総7、556頁  
 定価 本体334、000円+税

佛教海外開教史の研究

中西直樹著

本書は「佛教海外開教史資料集成(ハワイ編・北米編・南米編)」に収録した解題と収録内容一覧を一冊にまとめたものである。

体裁 A5判・並製・120頁  
 定価 本体2、000円+税

戦前期佛教社会事業の研究

中西直樹・高石史人・菊池正治著

本書は「戦前期佛教社会事業資料集成」に収録した解題と収録内容を一冊にまとめたものである。

体裁 A5判・上製・168頁  
 定価 本体2、500円+税